カラー・レジリエンス

Our transition toward COLOR resilience

世界は今、多面的な視野、論理的な思考、先を読む力が求められています。人類が育んできた物資文明の見直しと反省の機運を先取りし、世界にあまねく色彩から、今一度、風土と伝統、多様性と包摂、真善美の調和の原点に立ち返り、くらし全体を再認識することが大切です。テーマは「レジリエンス」。柔らかく優しく包容力のあるこのフレーズは、日本色彩学会に相応しく、世界の未来にも共通しています。複合的で多様な要素との関連性、そして、問題を解く好例として、立体パズルのシステムを視覚表現のヒントにしました。

日本色彩学会 第53回全国大会 [名古屋]'22

会期：2022年 6月25日（土）・26日（日）

会場：椙山女学園大学 星が丘キャンパス

https://www.color-science.jp/zenkoku2022/

Special Events

針山 孝彦 氏

浜松医科大学医学部・教授

〈特別学術講演〉
蟲（生き物）が観る世界を学び
持続性社会を実現する
蟲鳥学の創成

伊藤 望 氏

三鷹の森ジブリ美術館・学芸員

〈招待講演〉
アニメーションの色彩
スタジオジブリ作品を彩った
保田道世氏について

© 1988 Studio Ghibli

夜行性動物になったヒトの先祖は色覚を失い、その後、色彩を取り戻したため、ヒトの色弁別能は、視細胞のスペクトル受容帯域から推定される他の多くの動物よりも劣っている。また直線偏光や円偏光を識別できる動物が知られているが、ヒトはその能力を持たない。それにも関わらず、人間は、ヒトの視覚能が他の動物よりも勝っていると信じて疑わない。ヒトはタマムシ鞘翅の色と金属光沢を識別できないが、タマムシは両者を識別でき、鞘翅の構造色を同種間のコミュニケーションのための信号として用いている。我々は、地球を席巻している人類の尺度で環境を理解するだけでなく、生きとし生けるもの達それぞれが持つ情報世界を理解し、蟲の世界観とともに生態系のバランスを保つ技術確立が必要となった。我々を取り巻く色彩の世界を、他の蟲たちがどのように見ているのか、他の感覚Modalityが融合したときどのような行動変容が起こるのか。エネルギー論を中心に語られている生態学に、生物の情報世界の理解が加わることが必要である。

プロフィール

1983年東北大学応用情報学研究センター応用生体情報学助手、2001年浜松医科大学医学部助教授を経て、2004年同大学教授。その間、オーストラリア国立大学、ニュージーランド・ワイカト大学(南極スコット基地)、ケニヤ・国際昆虫生理生態研究所、フィンランド・ヘルシンキ大学、オランダ・グローニンゲン大学、イタリア・フィレンツェ大学の客員教授などを兼任。現在は、浜松医科大学・光尖端医学教育研究センター・ナノスーツ開発研究部にて、電子顕微鏡内で生きたまま・濡れたままの生物試料を観察する技術（NanoSuit® 法）の研究を推進。2019年に大学発ベンチャー・NanoSuit（株）を設立。

アニメーションではほんの一瞬で流れてしまうワンシーンにも、作り手たちが強いこだわりを持って配している“色”がある。そのため、制作工程にはキャラクターの色を決める作業が必要不可欠で、色彩設計や色指定という重要な仕事が存在する。戦後、巨大な動画工房「東映動画」が作られたのをきっかけに、日本のアニメーションは大きな集団で制作されるようになり、個人では難しかった長編作品が生まれ、動画も背景美術も質が高くなっていったが、色彩について言えば、多くの場合、晴天の昼間でも、夜の屋内でも、キャラクターには同じ色が塗られていた。しかし80年代以降になると、“色”は登場人物の印象を決めるだけではなく、実写映画や演劇における衣装や照明の役割も担い、時間帯、季節、空間、素材、人物の心理をも表現し、役割を広げていった。スタジオジブリ作品の色彩は、色彩設計として活躍した保田道世氏の功績抜きには語ることができない。保田道世氏が活躍した作品を紹介しながら、アニメーションの色彩表現とその魅力に迫る。

プロフィール

1971年北海道釧路市生まれ。多摩美術大学美術学部油画専攻卒業。1998 年スタジオジブリにアニメーターとして入社し、「ホーホケキョ となりの山田くん」「千と千尋の神隠し」などに参加。2004年より広報部に所属し、「崖の上のポニョ」「風立ちぬ」「かぐや姫の物語」など新作映画の関連書籍を担当。2015年より三鷹の森ジブリ美術館学芸に配属、以降学芸員としてジブリ作品の収蔵、保存に携わり、「レイアウト展」「高畑勲展」などの展覧会に学芸担当として参加。現在、アニメーション関係者の取材を重ねながら主に昭和時代のアニメーション作品の特色、技法、スタッフについて調査研究中。

募集

研究

著者が最近行ったオリジナルで未発表の研究を募集します

1. 色覚・生理
2. 測色・表色・色差
3. 色光・色材（照明, 光源, 染料, 顔料など）
4. 色彩情報（記録, 再現, 画像処理, 分析・評価など）
5. 色彩心理（感 覚・知覚, 認知, 感情, 調和など）
6. 色彩文化（色彩史, 民族・風土・伝統の色など）
7. 色彩芸術（美術, デザインなど）
8. 色彩教育
9. 色彩と肌・コスメティクス
10. 色彩環境・建築
11. 色彩と服飾・ファッション
12. 色彩応用・その他

作品

発表者が最近制作したオリジナルで未発表の作品を募集します

- A ファッションカラーデザイン
  （服飾・メイク・ネイル・ヘアメイク・パーソナルカラー など）
- B 商品カラーデザイン
  （商品企画・広告 など）
- C 環境 カラーデザイン
  （建築・土木・インテリア・パブリックデザイン・景観色彩計画 など）
- D その他
  （アート性の強い作品, 錯視デザインなど）

NEW 招待講演に合わせて「アニメーションの色彩」についての研究・作品も募集します

発表申込：'22 1/17㈪～2/7㈪
形式通知：'22 2月末頃
予稿締切：'22 3/28㈪

日本色彩学会
第53回 全国大会[名古屋]'22
会期：2022年6月25日（土）・26日（日）
会場：椙山女学園大学 星が丘キャンパス

第53回全国大会実行委員会
学会事務局： 03-5913-7079
zenkoku2022@color-science.jp
https://www.color-science.jp/zenkoku2022/

Designed by Mayuko WATANABE